

# 北九港&空 NEWS

2020  
WINTER  
Vol.19



平成27年撮影



昭和23年撮影(出典:国土地理院)



昭和44年撮影(出典:国土地理院)

- ▽ テーマ  
北九州港「洞海湾地区」
- ▽ ニュース  
若松港築港関連施設群が土木遺産に認定  
新造船「やまと」が進水



## イベント報告

### 出前講座

令和2年1月30日(木)、九州工業大学の学生を対象に、出前講座を開催しました。同大学の卒業生である当事務所職員により、「みなと」に關わる仕事をテーマに、北九州の港湾や空港の整備事業について紹介しました。港湾事業について知っていた、ただ、良い機会となりました。今後このような取り組みを増やしていきたいと思っておりますので、出前講座のご要望などありましたら、お気軽にお申し込みください。(詳細は当事務所HPを参照ください)



北九州港湾・空港整備事務所  
高嶋建設管理官

## ニュース (NEWS)

### 若松港築港関連施設群が土木遺産に認定

令和元年11月16日(土)、「若松港築港関連施設群」が土木学会選奨土木遺産認定制度により、令和元年度土木学会選奨土木遺産に認定されました。

この制度は、歴史的土木建造物の保存に資することを目的とし、平成12年度に創設されたものです。「若松港築港関連施設群」は東海岸通護岸や出入船舶見張り所跡など、6つの施設で構成されています。以下、その中の3つの施設。

- (1)東海岸通護岸  
明治25年から明治34年に埋立護岸として建設された石積み堤体。
- (2)出入船舶見張り所跡  
昭和6年、洞海湾に出入りする船舶の不正入港を監視するための施設。
- (3)測量基準点  
明治時代に使用された測量基準点で、標石は当時のままのもの。



東海岸通護岸(令和2年1月撮影)



出入船舶見張り所跡(令和2年1月撮影)



測量基準点(令和2年1月撮影)

### 新造船「やまと」が進水

令和2年1月10日(金)、阪九フェリーの新造船「やまと」の命名及び進水式が行われました。令和2年3月に就航予定の同型船「せつつ」に続き、令和2年6月から新門司港—神戸航路に就航予定です。令和2年1月からのSOx(硫黄酸化物)規制強化に対応するため、「せつつ」と同様にスクラバー(排ガス浄化装置)が搭載されてます。

阪九フェリー新造船(やまと)			
総トン数	約16,300トン	旅客定員	663人
全長	約195m	積載能力	8.5mトラック約277台 乗用車約188台
全幅	29.6m		
喫水	6.7m		



【提供】阪九フェリー株式会社

国土交通省 九州地方整備局  
北九州港湾・空港整備事務所  
〒801-0841 福岡県北九州市門司区西海岸1-4-40  
TEL(093)321-4631 FAX(093)322-5525  
Webアドレス <http://www.pa.qsr.mlit.go.jp/kitakyusyu/>



九州地方整備局では、平成29年7月より、各施設を管理する事務所等でインフラカードを無料配布(全65種類)。各配布施設等で希望すると1人1枚無料で入手できます。







洞海湾地区は、関門海峡の西口に湾口を持ち、湾口が狭く奥行きが広い形状であることから波の影響を受けにくく、古くより干拓による開発や、筑豊炭田の積出港として陸海交通が発展した歴史のある地区です。  
今回は、この歴史ある洞海湾地区について紹介します。

## ①洞海湾地区の歴史

### 江戸時代

洞海湾は、遠浅で干潮時には干潟が現れ、埋立が行いやすいという利点から、開発が積極的に行われました。また、洞海湾の奥部は、元禄13年(1700年)前後において黒崎や江川沿いの干拓が進められました。遠賀川と洞海湾を結ぶ江川は、年貢米の積み出しに活用されていました。

### 明治時代

明治政府により民間の鉱山開発が許可されると、遠賀川流域では次々と石炭関連の会社が設立され、官営八幡製鉄所を始めとした製鉄の原料として需要を増していきました。

若松港は、これらの石炭の積出港として大きく発展しました。

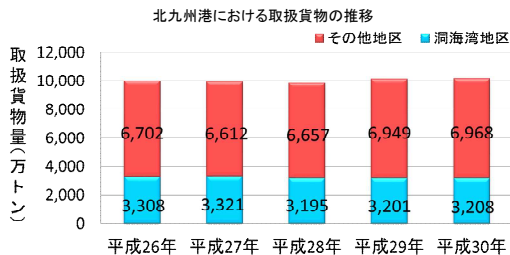
### 大正時代～昭和時代

大正から昭和にかけて湾内の埋立と工場の建設が進められ、戦後においても重工業や化学工業によって構成された地域として、北九州工業地帯を支える工業集積地として更に発展しました。また、洞海湾奥部の沿岸の工業開発に伴い、航路や泊地の浚渫が行われました。

### 現代

長年の開発により、現在は洞海湾を取り囲むように工業地帯が広がり、鉄鋼や化学製品などを扱う企業が数多く立地しており、洞海湾地区で取り扱われる貨物量は、北九州港全体の約3割となっています。

今後も、北九州港の産業を支える地区として更なる発展が期待されます。



## ②軍艦防波堤

洞海湾の入り口に位置する軍艦防波堤(正式名称は「響灘沈艦護岸」)は、昭和23年から24年にかけて旧日本海軍の軍艦を防波堤として利活用したものです。また、国内で唯一、軍艦の形状を目にすることができる防波堤であり、土木学会による「近代土木遺産2800選」にも選出されています。

この防波堤に使用された軍艦は、「涼月」「冬月」「柳」の3隻の駆逐艦で、涼月、冬月は戦艦大和の沖縄特攻「菊水作戦」に参加、柳は第一次世界大戦で地中海に派遣され、対潜作戦に従事していました。



軍艦防波堤(平成30年4月撮影)



わかちく史料館

令和元年度に認定された土木遺産などをもっとアピールして、観光客の増加や賑わいの創出に繋がっていきたく思っています。  
産業を中心に発展してきた洞海湾の歴史について、お忙しい中、たくさんのお話をお聞かせいただきありがとうございました。

〇3 今後の展開についてお聞かせください。  
令和元年度に認定された土木遺産などをもっとアピールして、観光客の増加や賑わいの創出に繋がっていきたく思っています。



こんぞう 石積み護岸

【提供】わかちく史料館

## 洞海湾の見所

### 皿倉山



皿倉山からの眺め【提供】北九州市

北九州国定公園の一部となっている皿倉山は、権現山や帆柱山などと合わせて「帆柱連山」と呼ばれ、標高が622メートルあり、北九州を代表する山です。また、山頂へは、ケーブルカーとスロープカーを利用して登ることができ、キャンプ場や皿倉山ビジターセンターなどが整備されています。山頂からは洞海湾を一望でき、皿倉山の夜景「100徳ドルの夜景」と呼ばれ、「高塔山」や「足立公園」など5つの夜景遺産とともに、平成30年「日本新三大夜景都市」に認定されました。

### 工場夜景



高塔山公園より撮影(令和2年2月)



城山緑地公園(黒崎城跡)より撮影(令和2年2月)

北九州市は、「ものづくりの街」として古くから日本の近代化を牽引しており、製鉄所や化学工場などの工場夜景は、近未来都市や巨大な要塞を目にするかのようです。この洞海湾地区にも多くの企業が立地しており、工場夜景を楽しむことができます。

## ③わかちく史料館

わかちく史料館館長の中堀俊雄様にお話を伺いました

〇1 わかちく史料館について教えてください。  
わかちく史料館は、洞海湾地区の港湾開発を行った若松築港株式会社を前身とする若築建設株式会社(運営)が平成9年3月21日に開館しました。館内では、洞海湾の開発事業を中心とした若松の歴史や人々の暮らしに触れることができます。また、過去の歴史を伝える貴重な資料を多数展示しており、写真、映像、模型なども多いため、大人から子供まで楽しく学べる空間になっています。

〇2 洞海湾について教えてください。  
洞海湾は、石炭の積出港として栄えてきましたが、明治34年当時は石積み護岸であったため、船舶の接岸が難しかったそうです。そのため、本船を海上で停泊させ、小型船を利用して「こんぞう(船)入石炭荷役をする沖仲仕」と呼ばれた人々によって手作業で積出しをしていました。